

せたがや 町総連だより

第45号

発行 世田谷区町会総連合会

世田谷区若林4-31-9 ポライト第2ビル202

☎・FAX 5481-3456

発行人 会長 齋藤重男

編集 情報誌編集委員会

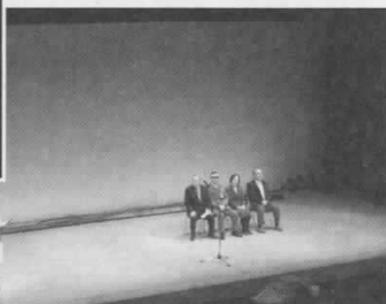
編集委員長 横山昭夫

「町総連主催のトークイベント」大盛況に終わる

←第1部 泉麻人さん講演



開会の様子



世田谷区町会総連合会は3月11日土曜日の午後2時、玉川区民会館ホールにて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた気運醸成のためのトークイベントを開催しました。開場前に100人以上が列を作り、約380人が来場する大盛況となりました。

まず町会総連合会を代表して、齋藤会長の挨拶、「町会・自治会がオリンピック・パラリンピックの成功という区民共通のテーマに取り組むことで、多くの方に地域で活動に参加してほしい。更に、わが町世田谷の良さを世界から訪れる方々に知ってもらうために、私たち一人ひとりが何をしたらよいのか考える機会になればと思います。」との言葉で幕を開けました。

第1部は、コラムニスト・泉麻人さんによる講演「東京・世田谷散歩1964～2020」でした。

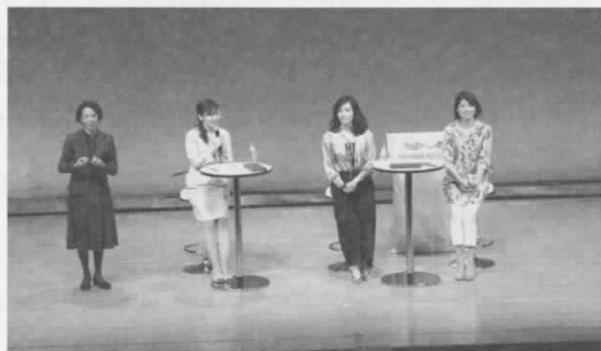
「今日は家にあるものを集めてオリンピック選手団の服装をコーディネートしてきました」との第一声で会場の笑いを誘いました。新宿区の小学校2年生で前回の東京オリンピックを経験し、体育の授業で東京五輪音頭の踊りを練習した思い出や、東京五輪音頭のレコードと振り付けが載っている歌詞カードを持っていたというエピソードも披露。世田谷区の郷土資料館所蔵の懐かしい風景写真を、スライドで紹介しながら、様々なエピソードを交えて街並みの移り変わりをお話いただきました。昭和39年の東京オリンピックの少し前、経堂駅前の狭い道を東京駅からの長距離バスが走っており、当時、美空ひばり主演の映画にも登

場したエピソードも紹介されました。「56年ぶりに東京オリンピックが開かれますが、この間に住みやすくなったところもあるし、失われたところもあります。古い写真をながめる意義とは、人の暮らしとはどういうものなのか、振り返ることにあると思います。」と締めくくって、第1部は終了しました。

当日は東日本大震災から6年目にあたることから、全員で黙祷を捧げ、休憩中はロビーで支援金の募金も行いました。

また、休憩中、舞台上のスクリーンには、馬術競技や障害者スポーツのメッセージビデオが上映されました。

第2部は、「オリ☆パラで世界と交流、地域で交流」のタイトルで、歌手の早見優さんと、アテネ・北京の2大会競泳メダリストの中村礼子さんの対談が行われました。アメリカと日本の文化の違いの話題から、お2人とも女の子2人のお母さんということで、子育ての話でも盛り上がりました。また、中村さんが、「オリンピックの時に もっと英語が話せたら世界観が広がったと思った」、と振り返り、早見さんからは、「2020年のオリンピック・パラリンピックに来られる外国の方は日本を勉強して来てください。『世田谷みどり33』のような日本のエコの部分、一般の皆さんがゴミの分別をしている良いところが、海外の皆さんにも伝わるといい」とのお話がありました。また、舞台上で中村さんのアテネ・北京の銅メダルが披露され、回を重ねるごとにメダルが大きくなり、重くなっていることも紹介されました。早見



第2部 トークイベント

さんからは、「多くの皆さんが日本を訪れるわけですから、日本人の優しさや良いところをおみやげとして持って帰っていただけたら。」と、中村さんからは、「世田谷にはアメリカの選手がキャンプに来るということで、競泳をはじめとする強

豪選手を間近に見られるというのは楽しみです。日本のおもてなし、皆さんと一緒に3年後、盛り上げていきたいと思います。」とのお話をいただき、イベントは終了しました。

地域情報

世田谷地域

池尻の郷土史から

町会恒例の活動の一つに年末のパトロールがあります。夜の町内を「火の用～心」と拍子木を叩いて廻るのですが、その合間、休憩で話し合う時間がまた楽しい。

15年程前迄は、戦争の頃を知っている人もまだ沢山いて、戦中の活躍話や池尻の昔話を聞く事が出来ました。

その様な事から池尻周辺の郷土の歴史に興味を持ち、小冊子やミニコミ紙を作ってきましたが、その中から池尻の歴史を少し。

江戸時代の池尻は、落語の大山詣りで有名な大山道が通り、それを境として池尻村と池沢村に分かれていました。天領で目黒川沿いの僅かな田んぼと畑、あとはススキの野原と雑木林に40～60戸程の農家が点在する村でした。その風景は明治時代に入っても続きましたが、近代化が始まり風景が変わったのが明治24年、今の池尻4丁目の所に騎兵第一大隊が移転してからです。

ところで歴史の縁か、その大隊に中隊長として着任したのが秋山好古です。司馬遼太郎の「坂の上の雲」で広く名が知れ渡った秋山兄弟の兄の方で、後に日露戦争では当時世界一と言われたコサック騎兵を破り日本騎兵の父と言われた人です。NHKのドラマでは阿部寛が演じていました。明治24年にフランスの陸軍士官学校から帰って赴任した最初の地が池尻でした。明治27年に日清戦争が始まると、池尻の騎兵を率いて戦いました。後に、隣の大橋の騎兵学校長にもなりました。

明治30年に今の世田谷公園周辺が練兵場になると下馬に野砲兵連隊が来て、関係する店が建ち軍隊の街が出来ていきましたが、軍との関わりは50年余り続きました。

明治36年に直線化された大山街道に路面電車が明治40年に開通すると、世田谷で最も賑やかな街になりました。明治43年には初代世田谷警察署が池尻停留所前に出来、世田谷最初の青物市場も池

池尻東親会 総務部長 上田 暁

尻交差点の所に出来ました。

昭和の戦争景気で世田谷随一の工業地帯を持つ池尻は急成長し、商店街は繁盛し花電車が走ったり提灯行列が繰り出されました。

その一方で戦前の池尻には今には無い風情があったと、今は亡き昭和2年生まれのお酒屋さんには話してくれました。

「新興の町は各地から集まって来た若い人達で活気に溢れていた。」「池尻は朝、物売りの声と兵舎のラッパの音で一日が始まった。」「店の従業員のの中には奉公に出されて来た人もいて、それぞれの郷里の方言が飛び交っていた。」「玉電の線路工夫達の歌が聞こえ、乾物屋の若い女店員が、日干しの魚を並べながら可愛い声で数え歌を歌っていた。」「物売りの声だけで無くいろいろな音が聞こえた。」「広場に大道芸人が来ると公演の旗が賑やかに並んだ。」「小学校を出たばかりの子守り姉ちゃんが、赤んぼを背負い紙芝居を遠くからそっと見ていた。」「道で疲れて倒れた馬を通行人や店の人が出て来て水をかけて助けていた。」等々



街の様子のお話は両親が子供だった頃の風景だが、今の地域の街づくりにとって何か為になるヒントがあるかもしれない。



砧地域

成城1～9丁目の地区街づくり計画が策定されました

法人格成城自治会 副会長 栗林 勝彦

本年5月、世田谷区都市整備方針第二部地域整備方針に則って、成城地区街づくり計画が策定されました。これは成城自治会が主になって立ち上げた街づくり協議会と区との協働の成果です。約2年間を経て、アンケート調査、意見募集を募りながら、ようやく完成したものです。

本計画の目標として、「将来にわたる成城のあり方について、既に自治会が作成した『成城憲章』『成城くらしのみち宣言』『成城ビジョン』に基づいて、本地区の良好な住環境・自然環境の維持保全を基調とし、学園都市として文化の香り高い、地区住民の自治と共生の精神で育まれる《みどりとゆとりに包まれた公園のような環境をもつまち》を目指し、街づくりを推進する」ことが掲げられています。すなわち、この計画は、区が住民の意向を下支えする基礎的な街づくりのルールです。

計画は、目標、街づくりの方針、地区整備計画の3部に分けられています。方針には、土地利用、道路・交通施設の整備、みどりとみずの整備、建築物等の整備、その他生活環境の維持・管理等が掲げられています。方針の中では、例えば、敷地規模は250㎡以上を確保する、道路から視認性の高い部分の緑化を進めるとともに、屋上緑化や壁面緑化は緑化面積に算入しない、集合住宅や大規模開発の建築行為に際し、隣接住民に対し、事前説明を行うこと等々、具体的な取り組み方が記されています。一方、ユニバーサルデザインの視点に立った整備改善に努めるとありますが、具体的な取り組み方は今後の課題です。このように、各方針の具体化に関しては、まだ多くの課題が残っています。

地区整備計画の中では、踏み込んだ具体的な計画

が示されていますが、一方では、建築物等の形態、色彩、及び意匠は、落ち着いた街並み景観に配慮したものとありますが、具体的な判断の手順は今後の課題です。6月から地区内で工事着手する者は、区に届けることが義務付けられています。

今年度、地区街づくり協議会は、下記の事を検討します。

- ①区の都市デザイン課が担当する界わい形成地区、及びユニバーサルデザイン等を参考にしながら、住民が主体的に取り組めるまちづくりや、散策路の形成を検討します。
- ②道路に関しては、駅周辺道路のあり方について、南北商店会と協調しながら検討します。ゾーン30の検討、とくに成城の主要道路の出入り口の課題を検討します。自転車安全通行、車椅子安全通行のために何ができるかを検討します。
- ③みどりとみずに関する具体的な提案などを検討します。とくに駅前交通広場と街中緑空間の創出、シンボルツリーの提案などを行います。
- ④財団法人トラストまちづくりが製作した「成城みどりのスタイルブック」を利用して、みどりの啓発活動を推進します。

私たち成城自治会は、我が街のまちづくりに全力を挙げて、取り組んでいます。



烏山地域

音楽のまち宣言

上祖師谷自治会 総務部広報 小家 征夫

平成29年2月12日、烏山地区町会自治会連合会研修会が開催され、その席で連合会水野会長が開会の挨拶をされました。「英国のEU離脱、予期せぬ新大統領の誕生、ヨーロッパでも、アメリカでも大きな時代の変化が起きています。スケールは違いますが私たちの町会自治会も旧態依然のままではよいと言う訳には行かないのではないか」

と。実は、水野会長は上祖師谷自治会の会長でもあります。地域での日々の自治会運営に携わったうえでの発言だったような気がします。自治会会長就任以来およそ20年。その間、特に近年、地域の変化は大きいものがあったと思います。人口は劇的に増え、ニーズは多様化しています。住民がいま求めているものは何なのか、自治会はどう応



夕涼み会に向けて朝のフラダンス教室

えていけばよいのか。簡単に答えが出るとは思いませんが、住民の心と離れてはならない、そんな気概が見えるようです。

いま、上祖師谷自治会は水野会長のもと自治会の新しい可能性に取り組んでいます。上祖師谷の素晴らしいところは、こんな時心を一つに協力し合う風土があることです。

まちづくりに求められるのは、まず安心・安全です。自治会防災防火部、防犯部、交通部、そして消防団もそのための努力を重ねています。そのうえで上祖師谷自治会は、住んで楽しいまち、温かな絆の育つまちを目指して様々な取り組みを行っています。特に力を入れているのが音楽を柱とした取り組みです。自治会内に音楽のまちづくりプロジェクトを立ち上げ、祖師谷公園さくらフェス、夕涼み会、祖師谷公園いこいのコンサートなど年5～6回の音楽イベントを開催しています。感動や共感、音楽には人をつなぐ力があると思うからです。

昨年7月の夕涼み会では、住民の全員参加を目標に生のハワイアの演奏で会場いっぱいフラダンスを楽しみました。会場の上祖師谷神明社境内はまるで南国一色に染まりました。実は、この日のために6～7月毎週水、土、日の3日間朝6時からフラダンス教室を開催。特に土、日は茅ヶ

崎から先生をお招きしての開催でした。

10月の祖師谷公園いこいのコンサートでは、普段コンサートに行く機会の少ない地域の皆さまに国内トップレベルの音楽家によるジャズや映画音楽を楽しんでいただいております。「来年もぜひ開催して」と言う声もたくさんいただきます。そんな声にお応え出来るよう、そして、これからも「音楽のまち上祖師谷」ブランドが定着し住む人の誇りや喜びにつながるよう工夫を重ねて行きます。

その他、ウクレレ教室、英会話教室、日本舞踊教室など暮らしを豊かにする独自の文化活動にも取り組んでいます。他にも新しい教室の構想もあり目途がつけばすぐにでも開設する予定です。

近年どこの自治会でも加入者の減少が問題化しているようです。昨年暮れに発生した新潟糸魚川市の大火災では、死者が一人も出ませんでした。その原因が隣近所の固いつながりにあったとニュースが報じていました。上祖師谷自治会でも自治会加入者が増加し、近所同士のつながりがもっと密になることを願っています。そのために、加入者の少なさをいわずらに嘆くのではなく、自治会自らが住民の心をつかむために知恵を絞り、汗を流しているところで。音楽のまちはその入り口です。



いこいのコンサートでジャズを楽しむ

※次号は北沢地域・玉川地域の情報を掲載します。

町総連ニュース

表彰

▼平成29年6月15日

東京都町会連合会表彰

大島 一孔 理事 (野毛町会)

白井 常祥 理事 (瀬田町会)

吉田 仁 理事 (千歳台廻沢町会)

本橋 俊夫 理事 (粕谷会)

編集後記

「町会に入りませんか?」「町会に入ったら何かいい事ありますか?」最近私の周りではこんな会話が良く聞かれます。古い家が壊されると、後に2軒、3軒と新しい家が出来ます。若い家族が引越して来ます。落ち着いた頃に町会加入のお願いに伺った時の会話です。

煩わしい事は嫌なのは皆一緒です。でも今、一番気になる事は災害はいつ来るか分からないことです。せめてご近所とつながりを持って仲間づくりをして、いざという時助け合う事が出来れば心強いですね。一世帯でも多くの会員が増えてご近所とふれ合うことの出来るまちづくりを皆でしていきたいものです。編集委員も部数を増やして回覧に載せたり、横書きにして若い人にも読みやすいように努力してます。

編集委員 飯塚 捷子